

2月21日(木) 2階B室 9:00~9:40

- 1 題材名 「考える」とは？
- 2 考える価値内容 自己
- 3 題材について

(1) 最後の「てつがく」のテーマ

3年生から4年間「てつがく」をしてきた子どもたちとの最後のテーマは、「考える」。一番当たり前に多様してきたこの言葉を子どもたちはどのように「てつがく」するのだろうか。そこで、今回は私の方から、このテーマを子どもたちに伝えた。『「考える」とは？うーん、今？』『「考える」とは、えっと今考えてます？』最初の子どもの反応である。それでも、「ここから自分の思うことを書いてみよう。」と投げかけるとノートに書き始めた。テーマがあると、何か自分で思いをめぐらし表現することは得意である。それを一覧にして分類・整理し、前提を作った。その後、問いを立て学習を進めていく。とても当たり前を使い、行っている「考える」という根本的な部分と向き合うことで、自分をみつめ直し自己をみつめる場としたい。(2内容-(1)イ, (2)エ)

(2) 「考える」の様相を探る

子どもが「考える」時、みながすぐに共通理解できたものは、「答えのないものについて考える」とと「答えがあるものについて考える」であった。てつがくの学習を始めた時から、答えのあることについて考えるだけでなく、世の中には答えがないものもあるという前提で子どもたちと学習を作ってきたので、自明であるのだろう。しかし、とても便利で頻繁に使う一言だが、実に様々な場面で、様々な解釈がされ、様々に使われる。言い方を悪くすれば、とても無責任な言葉なのかもしれない。その「考える」というたった一言が持っているものが何なのかを子どもとともに考えていく。(2内容-(1)ウ・エ)

(3) 他者の意見を受け取ること

子どもたちの学ぶ姿として、他者の意見に耳を傾け異質性を尊重する姿が挙げられている。そこでは、否定はしないが、批判はよしとされている。しかし、否定と批判の区別は難しい。本学級の中の実態として、「自分の意見をどんどん言う。」「友だちの話をじっと聴いている。」という表面的に見える部分で二分化している。内面的に見ると、両者とも「自分の考えは変わらない。」という子が多い。他者の意見や思いは、自分の考えを強固なものにするためにあるのだろうか。子どもたちが他者の意見をどう受け止めているかを子どもたち自身に自覚させていきたい。(2内容-(2)イ, (3)イ)

4 学習指導計画(7時間目/全10時間)

- ・「考える」とは？というテーマから現時点で個人の思うことを共有し、分類する。 …2時間
- ・「考える」とはについて、最初の問いを立て対話をする。 …2時間
- ・最初の対話から、問いを変化させ対話を深めていく。 …4時間(本時3時間目)
- ・最初の問い「考える」とは？についても一度対話をする。 …2時間
- ・学習を振り返り、自己評価を行う …1時間

5 本時の学習について

(1) 本時のねらい

自分たちで立てた問いについて意見をかわすことから「考える」ことはどんな意味があるのか、どんな使われ方をしているのか、多面的に捉えようとする。

(2) 予想される本時の展開

主な学習活動と子どもの姿	留意点
1 前時を振り返り、今日の問いを確認する	・学習の形態や流れについては司会と考える。
2 大テーマを意識しながら、今日の問いに取り組む	・一度受け止めるという姿勢を大切にさせる。
3 本時の振り返り	・一人で向き合う時間を大切にす。